

國字水滸傳十二編

上

第十五回首

楊志押送

金銀擔

柳亭校

仙果譯

國芳畫

兩國橋西

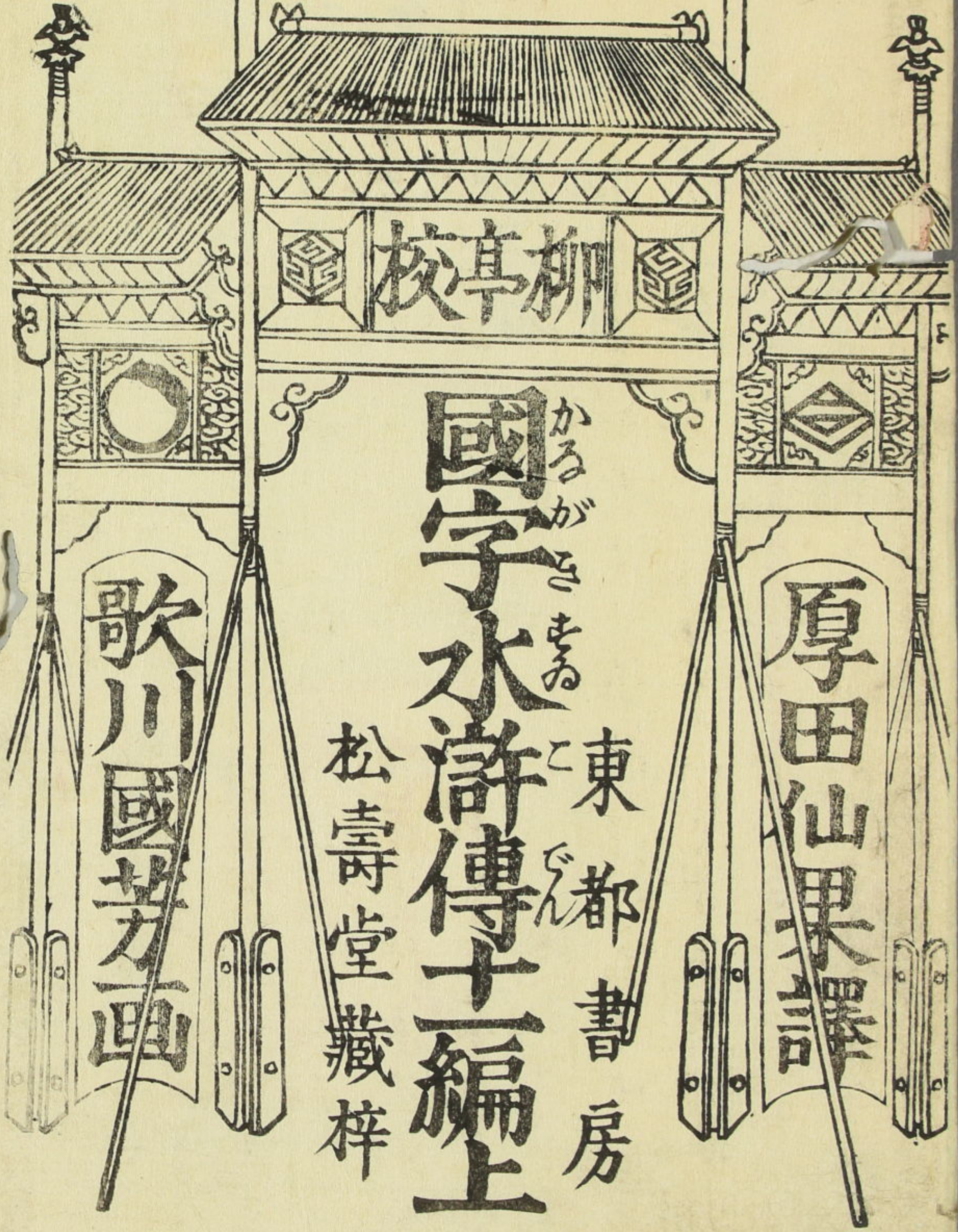


八 13
3812
11



門へ13
3812
11

刻新巳癸



國字水滸傳十編上

東都書房

松壽堂藏梓

歌川國芳画

厚田仙果譯

國字水滸傳第十一編序

予水滸傳をよみおだそえられむ
皇國の勢語源語ありを
漢土の趣向を借んとし不学の負惜を以て不讀接を
故めてあり仰水滸の文章早よ奇絶を以て又文字の
ひざまよ妙を極し小説るが予が如き下手作者の是を
國字ゆるをよまき酒を喫て喧嘩をちぬ盗人ぬ事なりで
時自更なるやこれ作者の作の字をつつが因果で六十葉
譯文をうり高祥もなまを後門人仙果もあがり予彼も
意よひりて是は又次で刊行るも十二編目の巻首の述懐
めり事を書き嗚呼小説家の視まをどうも事の多の事

天保癸巳孟陽

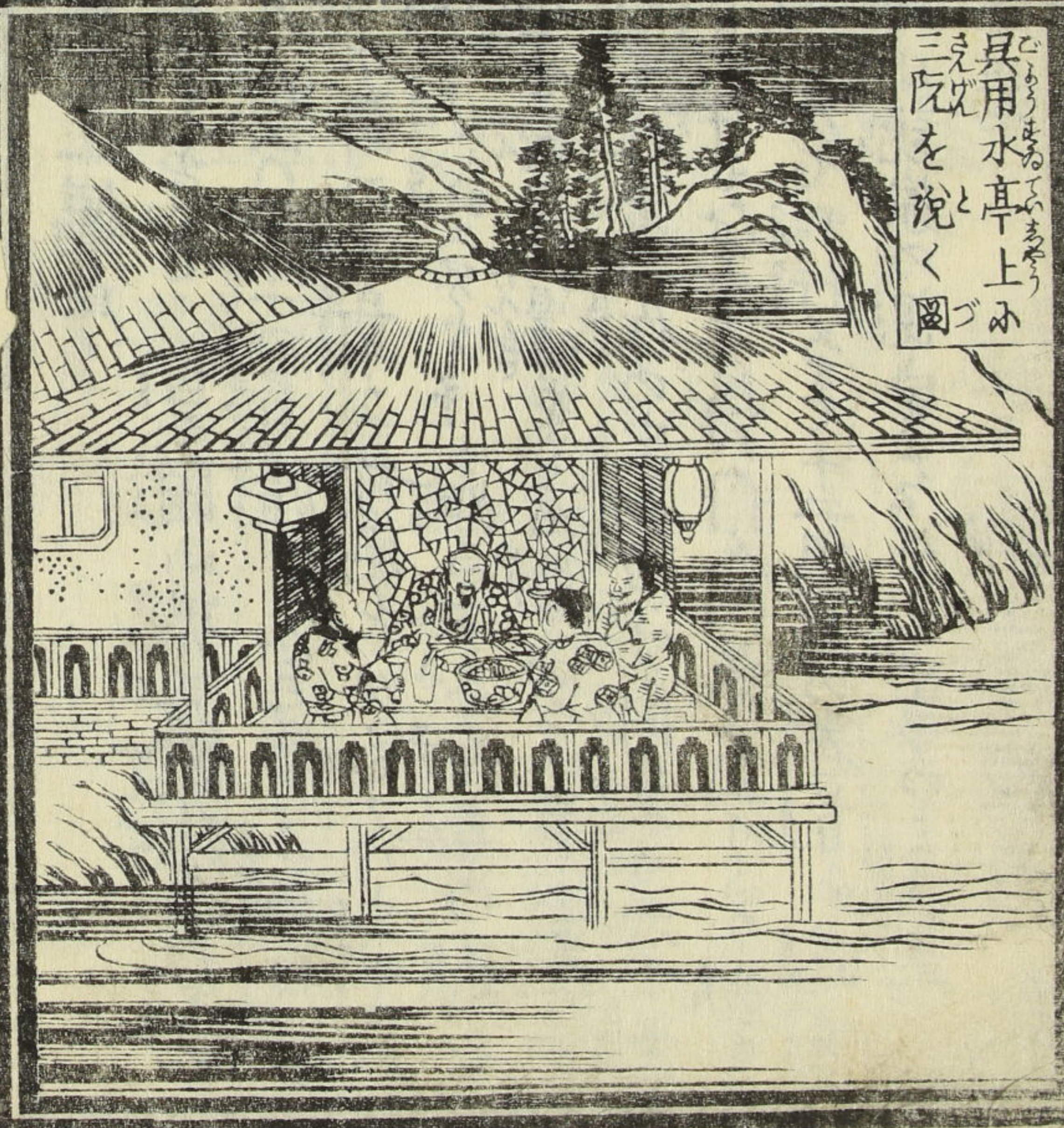
柳亭種彦記

水滸傳十一編

只為奸邪
 屈有女
 无教惡曜
 下凡來
 試看小
 三兄弟
 叔取生
 不義財

休道西
 川蜀道
 險峻如
 此是大
 以山
 良月

此亭名曰
 具用水亭
 上小
 三院を説く
 圖



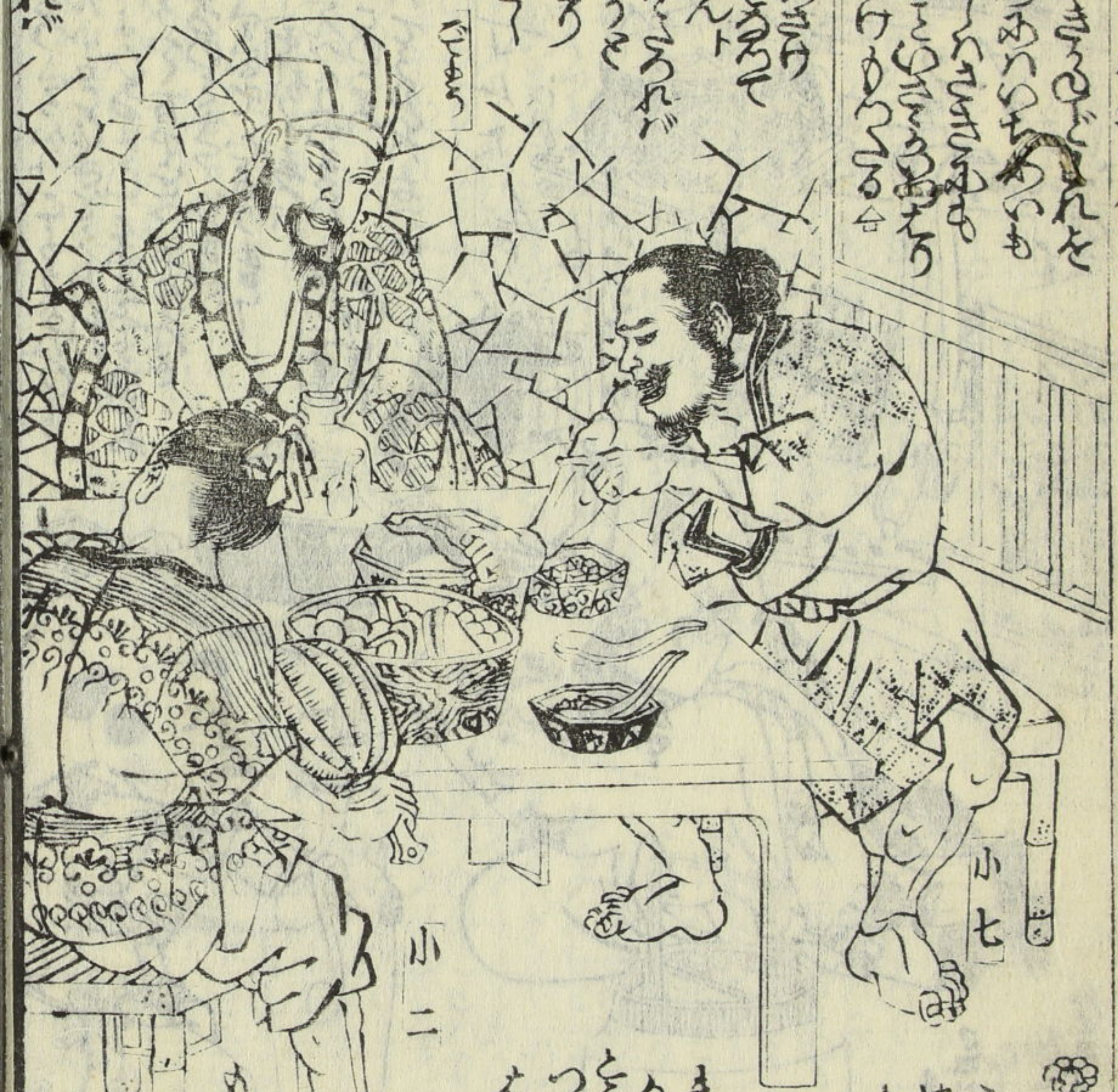
揚志上辰綱を監押し
 黄泥岡へ来る圖



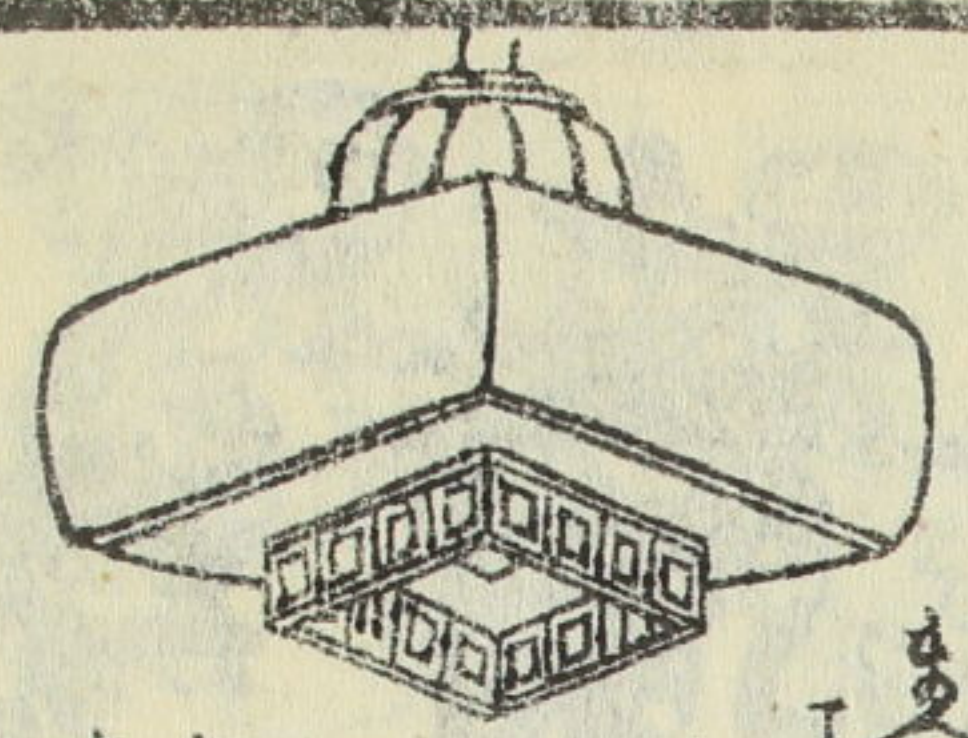
水滸傳十一編

○此の物語は、
○昔の事なり
○今も昔も
○同じ事なり
○此の物語は、
○昔の事なり
○今も昔も
○同じ事なり

○此の物語は、
○昔の事なり
○今も昔も
○同じ事なり
○此の物語は、
○昔の事なり
○今も昔も
○同じ事なり



○此の物語は、
○昔の事なり
○今も昔も
○同じ事なり
○此の物語は、
○昔の事なり
○今も昔も
○同じ事なり



○此の物語は、
○昔の事なり
○今も昔も
○同じ事なり
○此の物語は、
○昔の事なり
○今も昔も
○同じ事なり



○此の物語は、
○昔の事なり
○今も昔も
○同じ事なり
○此の物語は、
○昔の事なり
○今も昔も
○同じ事なり

皇用三郎等
保正(後)



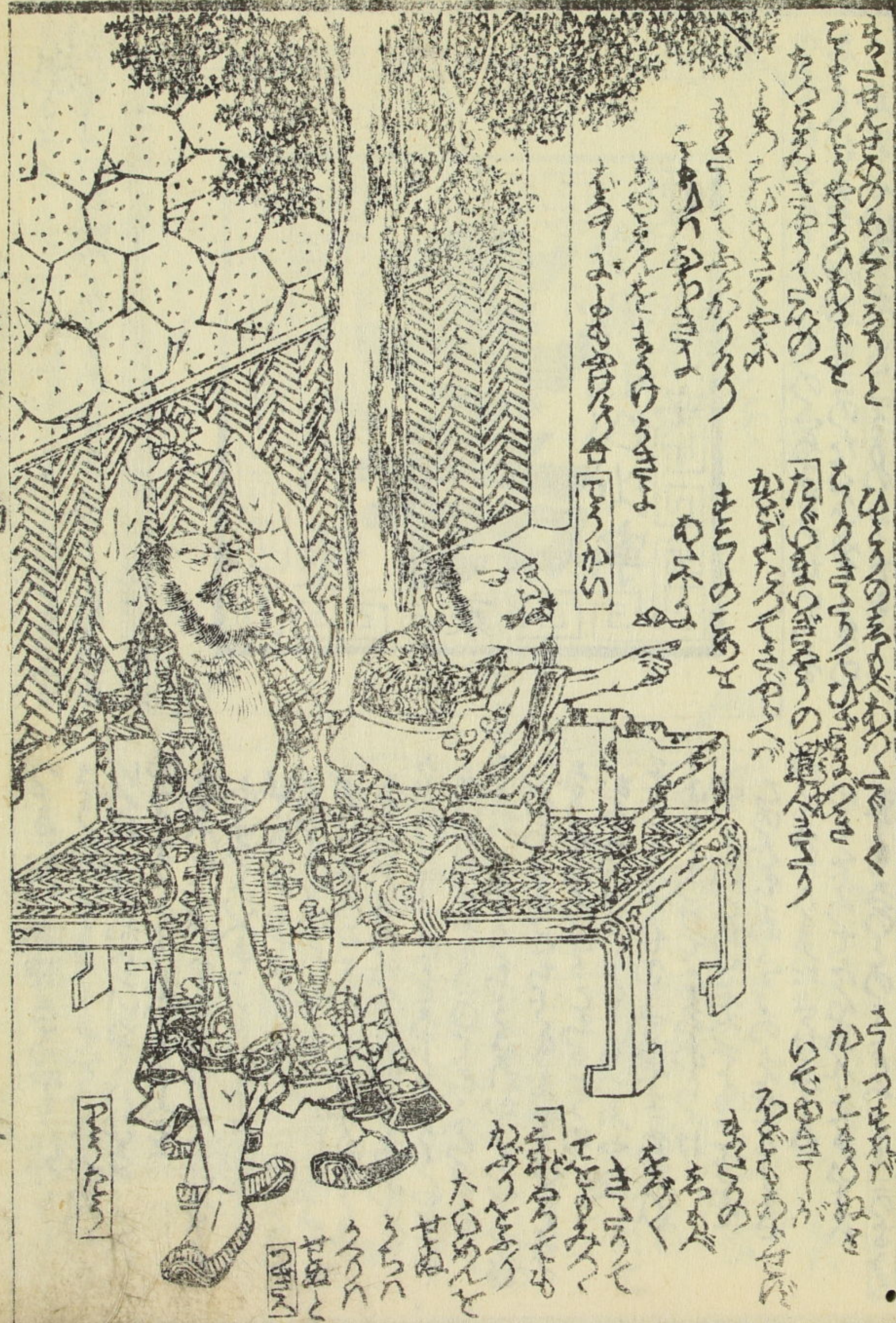
おのれはなまをそ
せなまのいののりも
むやみはうたえあひ
くまひにまはらぐら
ままのたまをこす
けれかたもよひか
ゆのひひもあひ
そのひひひひひひ
たらのひひひひひひ
たのひひひひひひ
かたのひひひひひひ

おのれの早太
おのれの早太
おのれの早太
おのれの早太
おのれの早太
おのれの早太
おのれの早太
おのれの早太
おのれの早太
おのれの早太

おのれの早太
おのれの早太
おのれの早太
おのれの早太
おのれの早太
おのれの早太
おのれの早太
おのれの早太
おのれの早太
おのれの早太

おのれの早太
おのれの早太
おのれの早太
おのれの早太
おのれの早太
おのれの早太
おのれの早太
おのれの早太
おのれの早太
おのれの早太

おのれの早太
おのれの早太
おのれの早太
おのれの早太
おのれの早太
おのれの早太
おのれの早太
おのれの早太
おのれの早太
おのれの早太

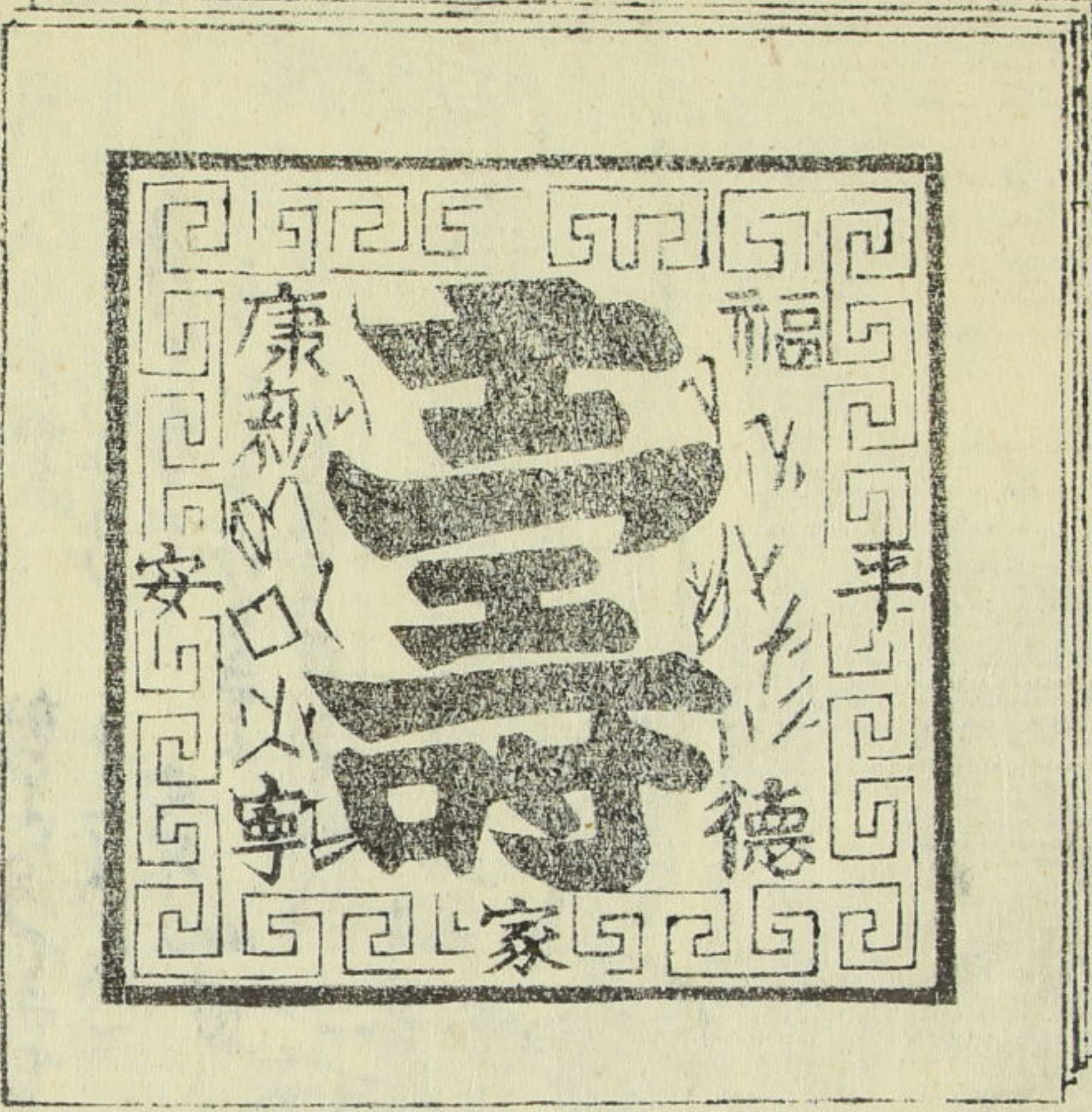


おのれの早太
おのれの早太
おのれの早太
おのれの早太
おのれの早太
おのれの早太
おのれの早太
おのれの早太
おのれの早太
おのれの早太

おのれの早太
おのれの早太
おのれの早太
おのれの早太
おのれの早太
おのれの早太
おのれの早太
おのれの早太
おのれの早太
おのれの早太

おのれの早太
おのれの早太
おのれの早太
おのれの早太
おのれの早太
おのれの早太
おのれの早太
おのれの早太
おのれの早太
おのれの早太

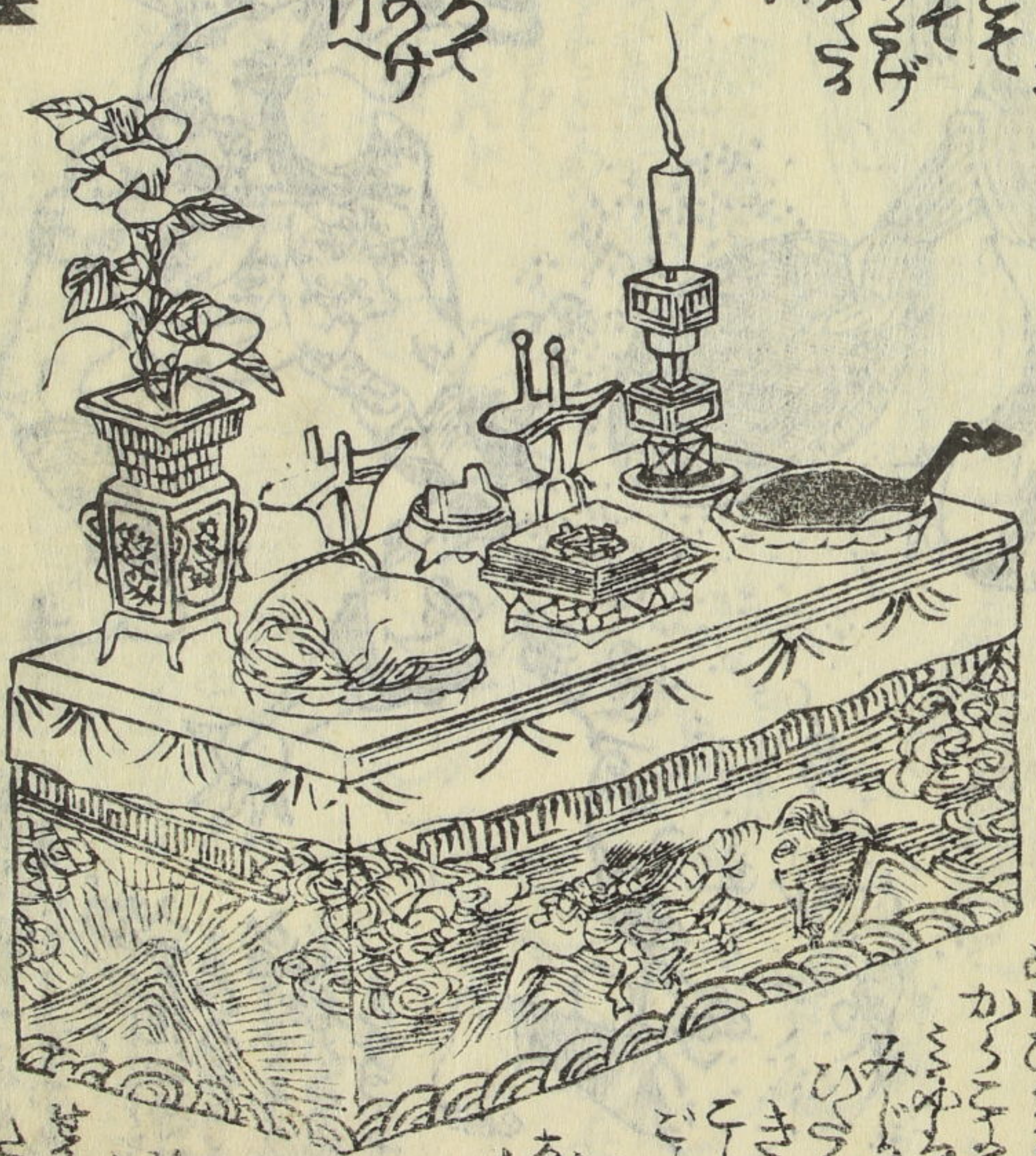
全... 徳... 家... 康... 寧... 福... 徳... 寧... 家



命... 徳... 家... 康... 寧... 福... 徳... 寧... 家

命... 徳... 家... 康... 寧... 福... 徳... 寧... 家

命... 徳... 家... 康... 寧... 福... 徳... 寧... 家



命... 徳... 家... 康... 寧... 福... 徳... 寧... 家

【西】 地蔵の神像を

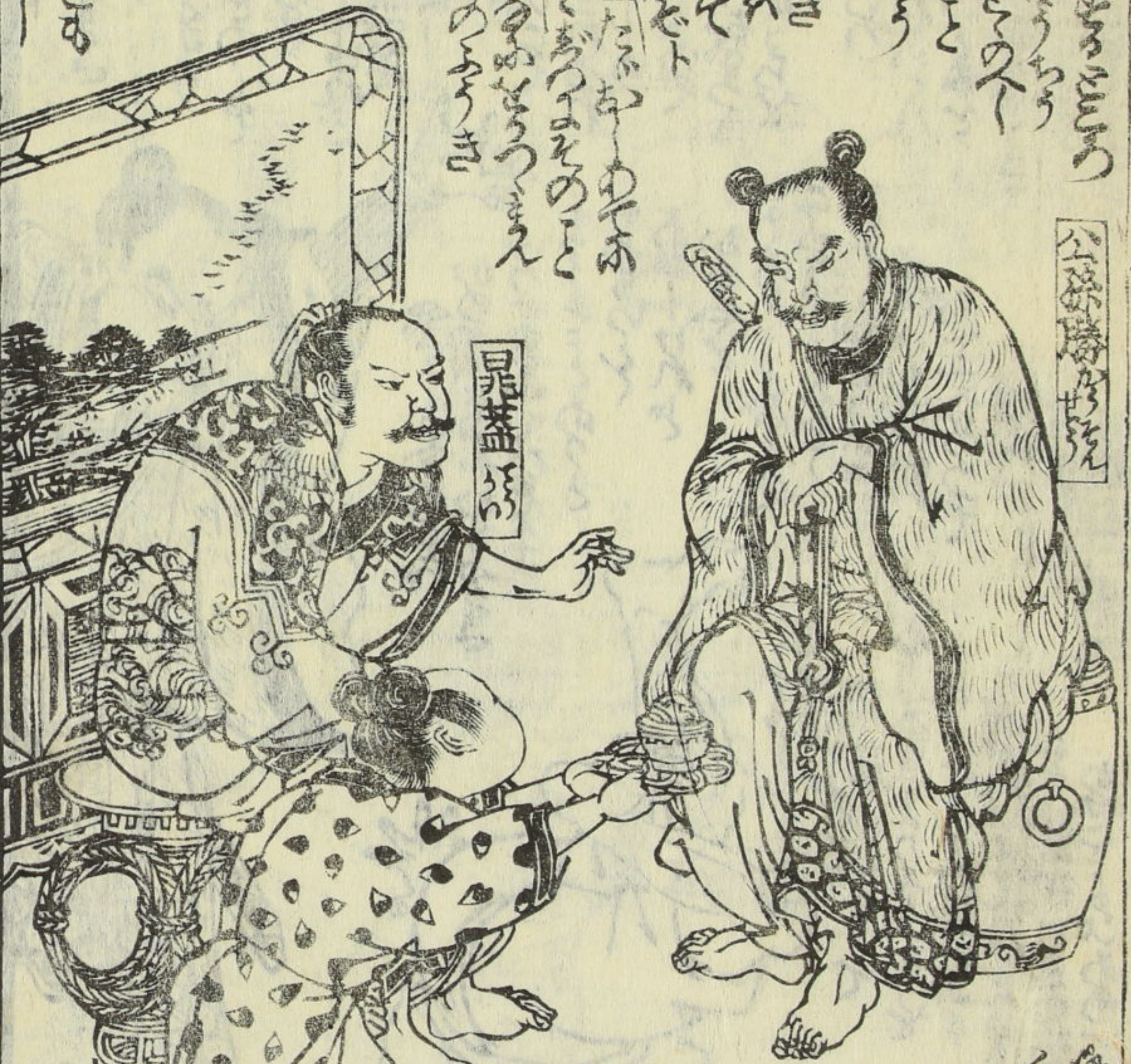
【八】 地蔵の神像

あつたまをた
りかたれりた
りかたれりた

あつたまをた
りかたれりた
りかたれりた

あつたまをた
りかたれりた
りかたれりた

あつたまをた
りかたれりた
りかたれりた



晁蓋

あつたまをた
りかたれりた
りかたれりた

あつたまをた
りかたれりた
りかたれりた

あつたまをた
りかたれりた
りかたれりた

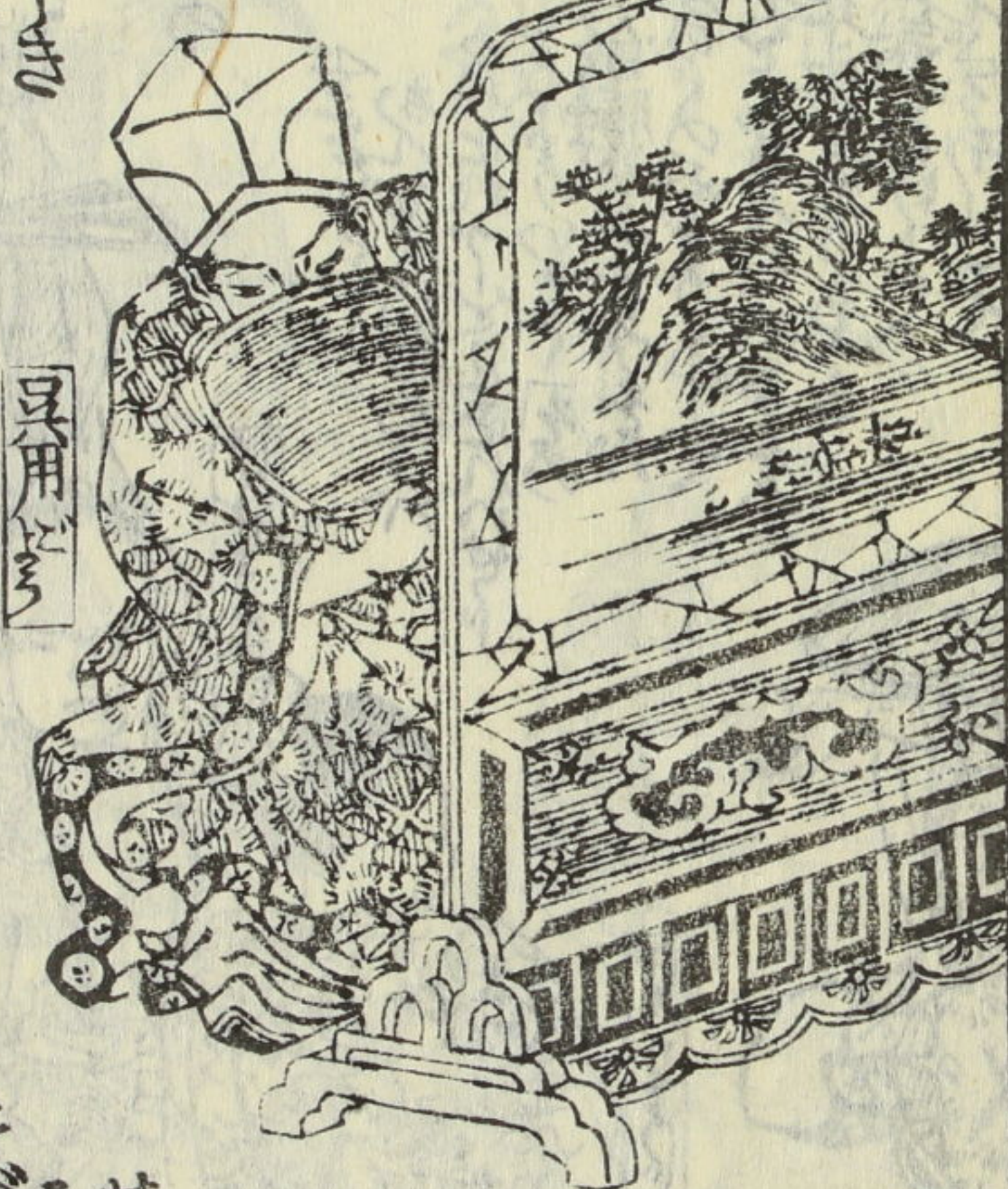
あつたまをた
りかたれりた
りかたれりた

あつたまをた
りかたれりた
りかたれりた

あつたまをた
りかたれりた
りかたれりた

あつたまをた
りかたれりた
りかたれりた

あつたまをた
りかたれりた
りかたれりた



豆用

あつたまをた
りかたれりた
りかたれりた

國字水滸傳十二編 下

第十五回 尾

吳用智取

生辰綱

柳亭校

仙果譯

國芳畫

新

新

筆

亭

片

頤

代

成

月

羽

雷

吉

通

其

雷

雞

音

癸巳新刻

水滸傳 十一編下冊

柳亭種彦校
歌川國芳画
厚田仙果譯



松壽堂梓

二の巻よりついでに
 紫金山 二龍山 桃花山
 金蓋山 小黃泥岡 白油場
 野雲渡 赤松林
 ... (transcription of the main text) ...

... (transcription of the illustration's text) ...

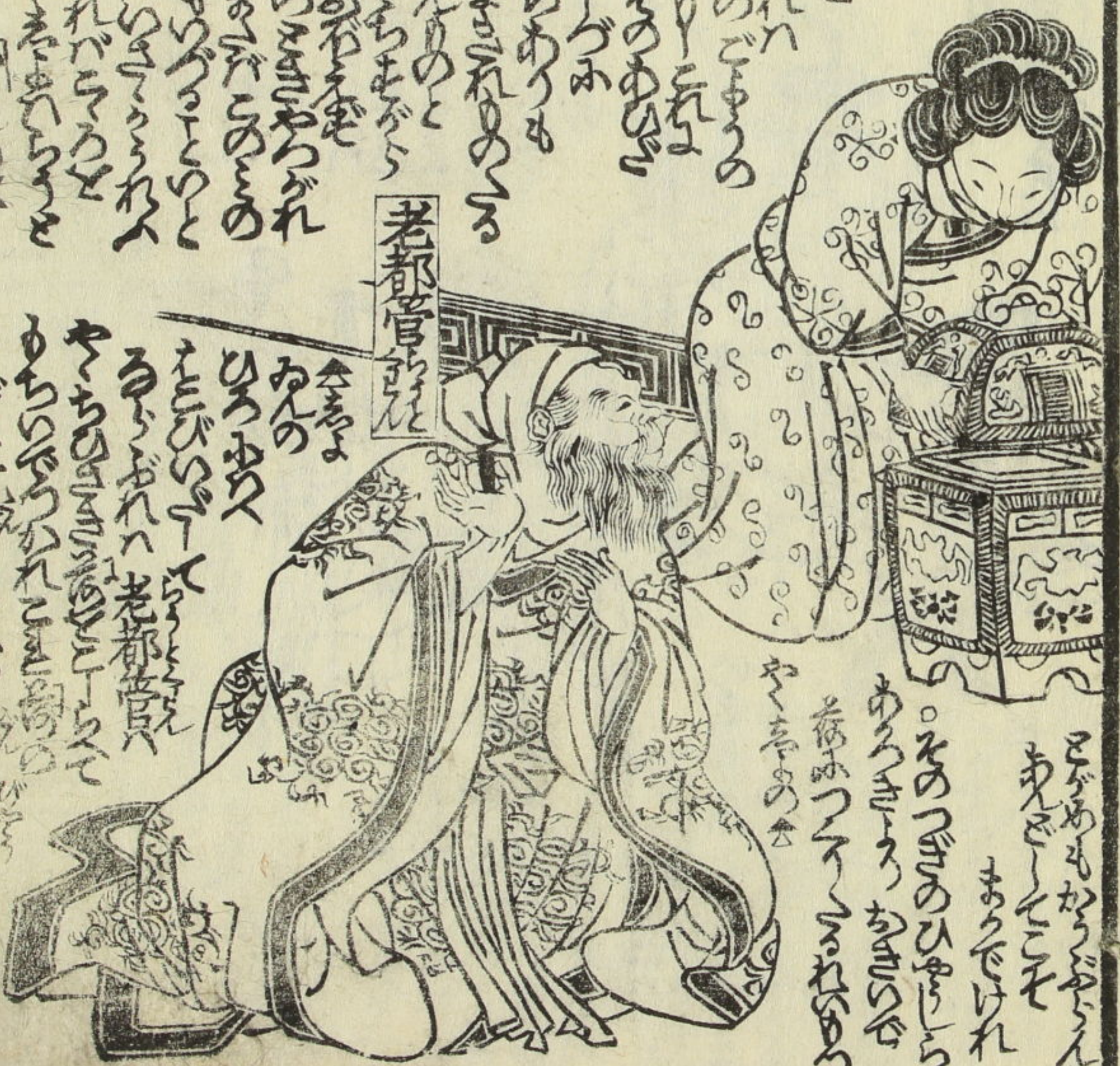


蔡夫人

Vertical Japanese text on the left side of the illustration, likely a dialogue or narration related to the scene.

Vertical Japanese text on the right side of the illustration, continuing the dialogue or narration.

Large block of vertical Japanese text at the top of the left page, providing context for the scene.



老都管

Vertical Japanese text at the bottom of the left page, likely a dialogue or narration related to the scene.



Vertical columns of handwritten text in a cursive style, likely a transcription of a speech or narrative.



大群傳二編

十一



Vertical columns of handwritten text on the left side of the illustration, likely identifying the characters or providing context.

Vertical columns of handwritten text on the right side of the illustration, likely identifying the characters or providing context.

水滸傳十一

十五

Vertical columns of handwritten Japanese text, likely a chapter introduction or commentary.



Vertical columns of handwritten Japanese text located below the illustration of the two men.

Vertical columns of handwritten Japanese text, including the names of the characters: 赤松義久 (Akemasa Yoshitaka), 野田木桶半枯魚 (Nozaki Kibako Hanyakui), and 農夫心内 (Nofu Shinin).



Vertical columns of handwritten Japanese text surrounding the illustration of the woman.

Vertical columns of handwritten Japanese text located below the illustration of the woman.

Handwritten text in vertical columns, likely a preface or commentary, located at the top of the right page.

Handwritten text in vertical columns, likely a preface or commentary, located at the bottom of the right page.

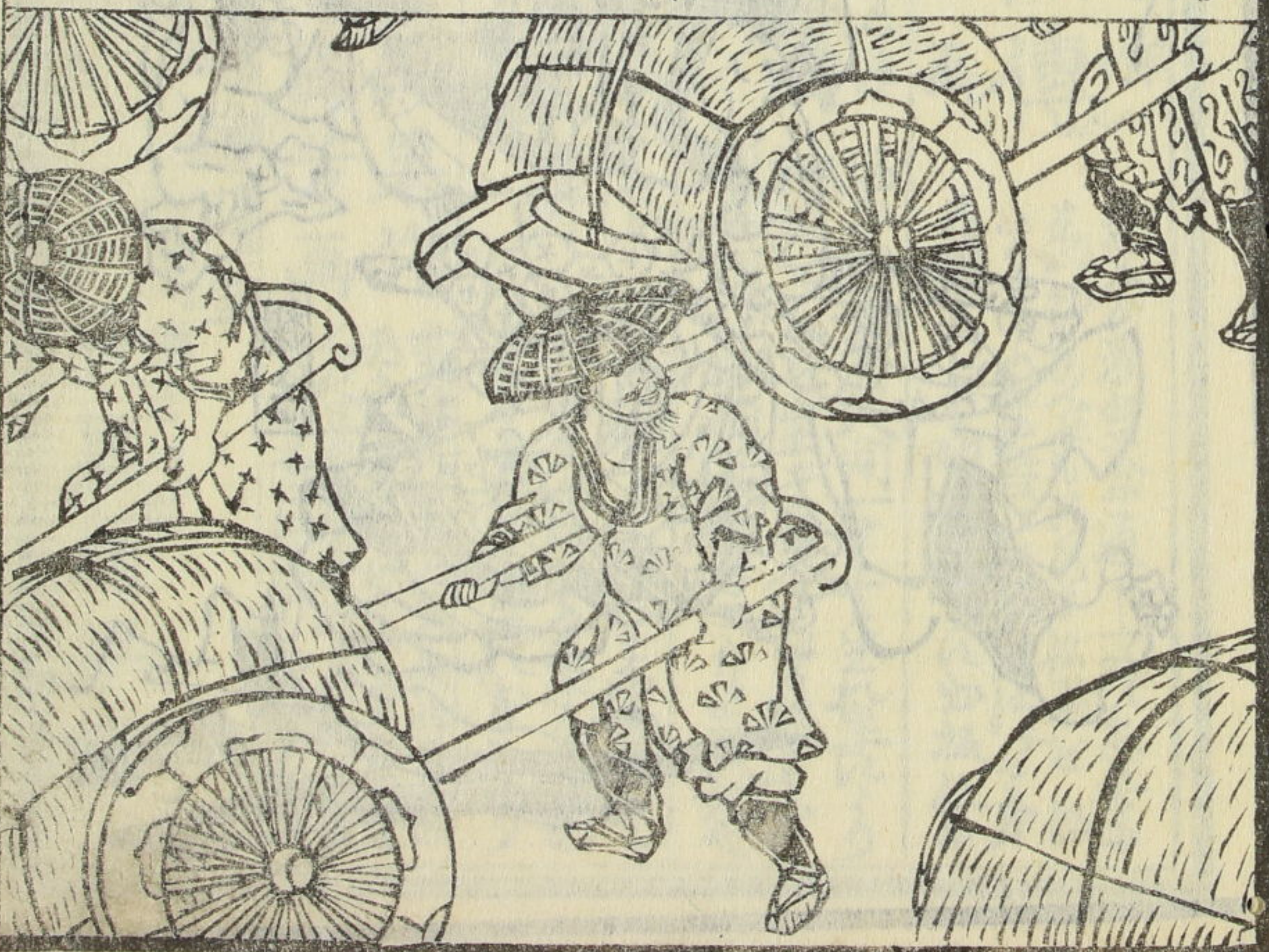




此處文字係由右至左，由上至下，係用一種特殊的文字或密碼寫成的，內容難以辨識。

卅

此處文字係由右至左，由上至下，係用一種特殊的文字或密碼寫成的，內容難以辨識。



松壽堂藏販略目録

柳亭種彦校
厚田仙果釋
歌川國芳画

此の巻は、松壽堂の蔵書に属するもので、柳亭種彦、厚田仙果、歌川國芳の三人によるものである。種彦は、仙果の作を校訂し、國芳は、仙果の作を釋義した。この巻は、仙果の作を、種彦の校訂と國芳の釋義とに分けて、それぞれに題名を附した。この巻は、仙果の作を、種彦の校訂と國芳の釋義とに分けて、それぞれに題名を附した。



曲亭馬琴作
風俗金魚傳

時代は、江戸の
金魚傳と稱する
世間の流行の
人情と動いたる

天保大雜書方々曆

此の書の人間一も生れ集り
神化せり、安永に於て、松久
男女相性、世相、万年曆、方々曆
此の書の人間一も生れ集り
神化せり、安永に於て、松久
男女相性、世相、万年曆、方々曆

三芝居
役者聲色早合点
似顔画入國貞画

此の書の人間一も生れ集り
神化せり、安永に於て、松久
男女相性、世相、万年曆、方々曆

國字水滸傳仙果作
國芳画

此の書の人間一も生れ集り
神化せり、安永に於て、松久
男女相性、世相、万年曆、方々曆

美艶仙女香
黒油美玄香
空巻全所二のめ
坂下氏精製

地本錦繪問屋
大黒屋平吉

新 樂 新 樂 新 樂
威 庚 新 樂
板 頤 箒 樂